

千葉県漢詩連盟

平成二十八年三月 第三号

千葉詩藪

目次

『千葉詩藻』第三号発刊に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

作品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

(顧問) 石川忠久 河内君平

(会長) 鷺野正明

相澤克典 青木智江 秋葉暁子 飯塚 勇 市川恵美子 井上夏央里

岩澤和枝 薄井 隆 岡安千尋 小川 工 小澤克巳 加藤 武

菊田祥子 北原豪彦 木村成憲 小久保洋子 小嶋明紀子 齋藤かつい

齋藤昭子 齋藤恭子 齋藤房江 椎名 廣 清水直美 清水義孝

菅原涼子 菅原 満 曾雌幸己枝 高橋秀彰 津田峻一 鶴岡志津子

富樫美代子 長島ツタエ 日高廣人 宮崎三郎 宮本美恵子 森崎直武

矢尾 晃 八嶋溪風 柳田昌宏 山下和子 山田紗代子 芳野禎文

千葉県漢詩連盟・役員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

入会のご案内 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

## 『千葉詩藻』第三号発刊に寄せて

会長 鷺野 正明

『千葉詩藻』第三号が滞りなく発刊されましたこと、ご同慶の至りに存じます。作品も年年すばらしいものになり、会員各位の努力に感謝したいと思います。

平成二十七年は千葉県漢詩連盟創立十周年の記念の年に当たり、『房総風雅』第三集の発刊（六月一日）をはじめとして、

自詠漢詩自書展 船橋市民ギャラリー、七月二十八日〜八月二日

十周年記念大会 台東区民会館、九月十二日

と、祝賀の行事が盛大に催されました。

久しぶりに墨を磨り筆を執った方、初めて詩吟に挑戦した方など、多くの方の参加をみたくは、参加したくなる雰囲気がこの連盟にあるからでしょう。幹事をはじめ皆さんが労を惜しまず準備と運営に当たってください、千葉県漢詩連盟の結束力の強さも示されました。

大会では、他県に先駆けて座談会が行われました。幹事四人の、身近な人の発言だけに、分かりやすかったと評判がよく、録音したものを活字化して会報に掲載したところ、読んでくだ

さった一般の方から会員になりたいと申し込みがあつたほどです。

十周年記念の締めとして、平成二十八年三月には、第三回の海外吟行を行う予定です。前回と同様、台湾国立中山大学を訪問し、大学の先生・学生と交流する予定です。

大会のときに思わず口をついて出たことばがあります。「ゆつたり、楽しく、健やかに」。吟行会などで身体を動かし、漢詩を作つて脳を活性化し、ゆつたり楽しく、よりよい詩を目指して、更なる発展を期したいと思います。

賀千葉縣漢詩連盟創立十周年

千葉縣漢詩連盟創立十周年を賀す

顧問

岳堂

石川忠久

鷗盟老少共凝工

鷗盟老少共に工を凝らし

溫故知新意愈隆

溫故知新意愈いよ隆し

可看房州騷國裏

看るべし房州騷國の裏

孜孜樹得十年功

孜孜樹て得たり十年の功

顧問 君平 河内利治

甲子歳末與菊川家雙親同宿温泉旅館

甲子歳末 菊川家の双親と  
同に温泉旅館に宿す

温泉共浴欲迎春

温泉共に浴して春を迎へんと欲し

絶境深山伴兩親

絶境深山 兩親を伴ふ

固識觀音千體地

固より識る 觀音千体の地

健康長壽願無垠

健康長壽願ふこと垠り無し

房州散策

房州散策

会長

翔堂

鷺野正明

群鴟緩緩御風旋

群鴟ぐんしゅ緩緩かんかんとして風かぜに御ごして旋まわり

雙燕差池掠稻田

雙燕そうえん差池しちとして稻とう田でんを掠かすむ

處處紫藤花下井

処々しよしよの紫藤しとう 花下かかの井せい

幾人墨客汲清泉

幾人いくにんの墨客ぼつかく 清泉せいせんを汲くむ

傘壽有感

勤如犬馬好風中  
常戰嚴寒笑貌空  
繫束已無都縱適  
敲詩傾酒不知窮

流山市

無有

相澤克典

傘壽感有り

勤むること犬馬の如し好風の中  
常に嚴寒に戦き笑貌空し  
繫束已に無く都て縦適  
詩を敲き酒を傾け窮むるを知らず

船橋市

青木智江

良夜佳筵

墨堤老小舉金觥  
朗朗高吟聲愈清  
樓上花香風一陣  
杯中光躍月三更

良夜佳筵

墨堤老小金觥を挙げ  
朗朗高吟して声愈いよ清し  
樓上花は香る風一陣  
杯中光は躍る月三更



惜春

細雨生生萬物濡  
花紅柳綠一齊蘇  
狂風忽到春過速  
悅樂悲愁相盡無

遊信州高遠

芳塵十里野風柔  
櫻迥青穹占一丘  
城址嬉春人易醉  
旅情信步得勝遊

和光市

曉風

秋葉曉子

惜春

細雨生々万物濡さいう せいせい ばんぶつ ぬる  
花は紅に柳は緑にして一齊に蘇へるはな くれなゐ やなぎ みどり いっせいに すへる  
狂風忽ち到れば春過ぐるきやうふう たちま いた ばる すこと速はや  
悅樂悲愁相ひ尽くるえつらく ひとしやう かけあひ じんくること無しな

信州高遠に遊ぶ

芳塵十里野風柔らかにほうじん じゆりや やふう やわ  
櫻は青穹を迥り一丘を占むうくらん せいきゆう を へり いっさう を しば  
城址春を嬉しむ人は酔い易くじやうし はる たの ひと は さい やす  
旅情歩に信せて勝遊を得たりりよじやう ほ に しか せ て しょうじゆう を えた

市川市

祐城

飯塚

勇

訪小布施岩松寺

溪雪纒留五岳山

行行尋到佛堂閑

眼光炯炯畫龍氣

赫赫靈威拂外患

秦野市

溪燕

市川恵美子

小布施の岩松寺を訪ぬ

溪雪纒に留む五岳の山

行き行きて尋ね到れば仏堂閑かなり

眼光炯々 画龍の氣

赫赫たる靈威 外患を払ふ

新年偶成

東風習習草堂晨

磨墨窓邊心氣新

揮筆淋漓初字麗

庭梅馥郁鳥聲春

市原市

井上夏央里

新年偶成

東風習々 草堂の晨

墨を磨る窓邊 心氣新たなり

筆を揮へば淋漓として初字麗し

庭梅馥郁 鳥聲春なり

野水鴨鳧

漠漠平原碧水湄  
綠頭紅足鴨鳧歸  
頻頻求餌浮沈處  
呼匹紛喧風細微

八千代市

淑眞

岩澤和枝

野水鴨鳧

漠々たる平原碧水の湄  
綠頭紅足鴨鳧歸る  
頻々餌を求め浮沈する処  
匹を呼び紛喧風細微

荷露

池畔曳筇荷氣幽  
風來紅萼自悠悠  
露珠轉轉映朝日  
相集相離葉上遊

柏市

蹊山

薄井

隆

荷露

池畔に筇を曳けば荷氣幽かなり  
風来りて紅萼自ずから悠悠  
露珠轉々朝日に映じ  
相集ひ相離れて葉上に遊ぶ

東京都

岡安千尋

吐魯番火焰山

吐魯番火焰山トルファンカエンざん

赤沙山嶂獨峨峨

赤沙の山嶂せきさのさんしやう獨り峨々ひとがたり

赫赫如燃放熱波

赫々かくかくとして燃ゆるがごと如く熱波ねつぱを放つ

遙想法師天竺路

遙はるかに想ふ法師ほうし天竺てんじくへの路みち

衲衣拂焰舞婆娑

衲衣のうい焰ほのおを払ひ舞ひて婆娑ばさたるを

秋日郊行

秋日郊行しゅうじつこうこう

小田原市

濤堂

小川

工

新涼散策夕陽微

新涼しんりやう散策さんさくして夕陽せきやう微かすかなり

蟋蟀無聲暮鳥飛

蟋蟀しゅうしつ聲こゑ無く暮鳥ぼちやう飛ぶ

獨坐遙天山月出

獨ひとり坐ぶせば遙天やうてん山月さんげつ出いづ

流星燦爛且忘歸

流星りゅうせい燦爛さんらん且しばく帰かえるを忘わする

宗谷岬

薰風行樂一閑人  
草野無邊物色新  
最北獨來望碧海  
故郷渺渺淚盈濱

遊林間

曉晨荒徑入楓林  
氣爽大興修練心  
忽見亂飛鴉雀舞  
好爲何日止雲吟

流山市

州風

小澤克巳

宗谷岬

薰風くんぷうに行樂こうらくす一閑人いちかんじん  
草野そうや無邊ひへん物色ぶつしき新あらたなり  
最北さいほく獨ひとり來きたり碧海へきかいを望のぞめば  
故郷こきやう渺びやう渺びやう淚なみだ浜はまに盈みつ

船橋市

加藤 武

林間に遊ぶ

曉晨ぎやうしん荒徑こうけい楓林ふうりんに入いる  
氣爽きさわやかに大おおいに興おこす修練しゅうれんの心こころ  
忽たちまち見みる乱みだれ飛とぶ鴉雀あじやくの舞まい  
好よし何いずれの日ひか雲くもを止とどむるの吟げんを為なさん

坂田池

池邊信步午風輕  
桃李菜花相競生  
忽渴一亭茶飲處  
瓶中數朶水仙清

八千代市

聖山

菊田祥子

坂田池

池邊ちへん歩ほに信ませば午風輕ごふうからし  
桃李菜花とうりさいか相競あいきせひて生しやうず  
忽いち渴かいて一亭いつてい茶飲ちやのむ処ところ  
瓶びん中ちゆう數朶すうだ水仙清すいせんきよし

初秋吟

唧唧新蛩入孟秋  
山溪欲錦露華柔  
今宵天上黃金月  
何處桂香心自悠

千葉市

旭峯

北原豪彦

初秋吟

唧しやくしやく々として新蛩しんきゆう孟秋もうしゆう入いる  
山溪さんけい錦にしんならんと欲ほつして露華ろか柔やわらかなり  
今宵こんしやう天上てんじやう黃金おうこんの月つゝ  
何處いすこの桂香けいこうか心こころ自おのずから悠ゆうなり

宿熱海滯春亭

欲觀煙火孟秋天  
約友尋來熱海邊  
不測濛濛三日雨  
高樓窓暗夜蕭然

習志野市

春虛

木村成憲

熱海滯春亭に宿す

観んと欲す煙火孟秋の天  
友と約し尋ね来る熱海の辺  
測らざりき濛々三日の雨  
高樓窓暗うして夜蕭然

袋田瀑布

遠聽琴韻爽還爽  
近看飛流清更清  
染出群山全錦繡  
一條素練自無爭

町田市

凰洋

小久保洋子

袋田の瀑布

遠く聴く琴韻爽還た爽  
近く看る飛流清更に清  
染め出だす群山全て錦繡  
一條の素練自ずから争ふこと無し

紅牡丹

紅葩的礫冠芳園  
春曉受風階下翻  
恰似太真遊宴後  
卯時醉着倚瑤軒

藤沢市

紅牡丹

紅葩的礫として芳園に冠たり  
春曉風を受けて階下に翻る  
恰も似たり太真遊宴の後  
卯時醉着して瑤軒に倚るに

小嶋明紀子

雪中探梅

餘寒未去雪消遲  
牆角晴光有好枝  
已見紅梅花數點  
香風到處領春奇

松戸市

雪中探梅

餘寒未だ去らず雪の消ゆること遅し  
牆角の晴光好枝有り  
已に見る紅梅花數點  
香風到る處春を領して奇なり

桂香 齋藤かつい



見贈書有感

知汝深情感有餘  
忝垂訓戒喜何如  
白頭追夢尋風雅  
老眼忘時親蠹魚  
千里秋聲鴻雁杳  
一莊爐火鐸鈴疎  
遙思初學早春日  
靜夜燈前再展書

東京都

蕙芳

齋藤昭子

書を贈られ感有り

汝の深情を知り 感余り有り

忝くも訓戒を垂る 喜び何如

白頭夢を追ひて風雅を尋ね

老眼時を忘れて蠹魚に親しむ

千里の秋声 鴻雁杳かに

一莊の爐火 鐸鈴疎なり

遙かに思ふ 初学早春の日

静夜燈前 再び書を展く

町田市 恭泉 齋藤恭子

訪藤沢周平文學之故郷

藤沢周平文學の故郷を訪ぬ

庄内訪尋西又東

庄内訪尋す西又た東

山川積翠度雄風

山川積翠雄風度る

一碑永刻緣由事

一碑永く刻す緣由の事

遠想往時斜照紅

遠く往時を想へば斜照紅なり

市川市 洗鷺 齋藤房江

千葉縣漢詩連盟十周年大会

千葉縣漢詩連盟十周年大会

切磋琢磨經十年

切磋琢磨十年を経

長堤朋友設瓊筵

長堤朋友瓊筵を設く

吟詩朗朗水逾淨

吟詩朗朗水逾いよ淨く

聲忽停雲房總天

聲は忽ち雲を停む房總の天

海村偶成

曉起遙望月色過  
新陽照出注平波  
漁歌忽入高樓上  
炙養傾杯奈快何

匝瑳市

耕道 椎名 廣

海村偶成

曉起して遙かに望めば月色過ぎ  
新陽照し出だして平波に注ぐ  
漁歌忽ち入る高樓の上  
養を炙り杯を傾くれば快を奈何せん

月夜墨水舟行

江上風柔一夜涼  
架橋點燭競明粧  
都城月影含羞態  
數隱高樓層塔傍

船橋市

清水直美

月夜墨水舟行

江上風柔らかにして一夜涼し  
架橋燭を点じて明粧を競ふ  
都城の月影含羞の態  
數しば隱る高樓と層塔の傍

鋸山

巨壁摩天臨海灣  
白雲湧處入仙寰  
山巔大鋸嘗誰振  
石佛一千清且閑

鋸山のしやま

巨壁天を摩し海灣に臨む  
白雲湧く処 仙寰に入る  
山巔の大鋸嘗て誰か振ふ  
石仏一千清且つ閑

船橋市

蒨山 清水義孝

新年偶成

翠竹蒼松淑氣開  
陀螺嬉戲笑聲陪  
白紅旋轉色方定  
宛似呼春五瓣梅

新年偶成しんねんぐうせい

八千代市 隨貞 菅原涼子  
翠竹蒼松淑氣開く  
陀螺嬉戲して笑声陪ふ  
白紅旋轉して色方に定まる  
宛も春を呼ぶ五弁の梅に似たり

八千代市 有恒 菅原 満

賀千葉縣漢詩連盟創立十周年

千葉縣漢詩連盟創立十周年を賀す

歳陽迎乙又巡過

歳陽乙を迎えて又た巡り過ぐ

詩會經營苦樂多

詩會の經營苦樂多し

閨秀帥先拓蕪地

閨秀帥先して蕪地を拓き

俊才垂範養嘉禾

俊才垂範して嘉禾を養う

吟來卅韻柏梁句

吟じ來る卅韻の柏梁の句

講去千篇房總歌

講じ去る千篇の房總の歌

育得詩田金穰遍

育て得たり詩田に金穰遍し

一莖九穗是如何

一莖九穗是れ如何

疏雨楓林

曳杖山蹊秋色中  
如燃晚艷一林楓  
蕭蕭疏雨歸禽急  
霜葉紛飛浙瀝風

我孫子市 如蘭 曾雌幸己枝  
疏雨楓林

杖を曳く山蹊秋色の中  
燃ゆるが如し 晚艷一林の楓  
蕭々たる疏雨 帰禽急に  
霜葉紛飛して浙瀝の風

詠敗荷

首夏人稱紅白奇  
孟秋侮蔑老殘姿  
莫言花盡不堪賞  
子作藥材莖作絲

東京都 敗荷を詠ず

高橋秀彰

首夏人は紅白の奇なるを称するも  
孟秋侮蔑す 老殘の姿  
言ふ莫れ花尽きて賞するに堪へずと  
子は藥材と作り莖は糸と作る

十二夜

斜日欲沈隅水航  
天空大樹放青光  
月浮塔上宛如畫  
尚早舉杯俱賞揚

船橋市

峻嶺 津田峻一

十二夜

斜日沈まんと欲す隅水の航  
天空大樹 青光を放つ  
月は塔上に浮かびて宛ら画くが如きも  
尚お早し杯を挙げて俱に賞揚するに

春雨

滿庭桃李十分開  
何事狂風送雨來  
明日若晴花散幾  
白紅潤露映青苔

市原市

香苑 鶴岡志津子

春雨

滿庭桃李十分に開くに  
何事ぞ狂風雨を送つて來る  
明日若し晴れなば花散ること幾ばくぞ  
白紅露に潤うて青苔に映ぜん

賜台灣茶

團茶凝綠似眞珠  
香伴清風忽滿厨  
一啜身輕千古味  
南軒獨倚鳥聲殊

柏市

貞華 富樫美代子

台湾の茶を賜る

團茶緑を凝らして眞珠に似たり  
香は清風を伴ひて忽ち厨に満つ  
一啜身は輕し千古の味  
南軒獨り倚れば鳥声殊なる

弘法寺梅檀

小徑獨行風正芳  
梅檀爛漫樹梢光  
翩翩碧蝶無心舞  
飽看不知沈夕陽

船橋市

曉舟 長島ツタエ

弘法寺の梅檀

小徑獨り行けば風正に芳し  
梅檀爛漫樹梢光る  
翩翩として碧蝶無心に舞う  
飽くまで見て知らず夕陽沈むを



雪中早梅

朝陽漸上雪雲晴  
定有綿蠻出谷鶯  
欲訪梅園行小徑  
枝頭點點已香精

雪中早梅

朝陽漸あさひく上のぼりて雪雲晴せつうんはるれば  
定さだめて有あらん綿蠻めんばんとして谷たにを出いづるの鶯あう  
梅園ばいえんを訪たずねんと欲ほつして小徑しょうけいを行ゆけば  
枝頭しとう点てん々た已すでに香かり精せいなり

柏市

無堂

日高廣人

大漠初陽 (乙未元朝撒哈拉沙漠)

騎駝拂曉逐砂痕  
寒透征衣四望昏  
天地忽開光一閃  
蘇生萬物溢紅暎

大漠初陽 (乙未元朝撒哈拉沙漠)

大漠たいばく初陽しよやう (乙未元朝撒哈拉沙漠)  
駝だに騎のり払曉はつぎやう砂痕さこんを逐おへば  
寒かんは征衣せいいに透とおり四望しぼう昏くらし  
天地てんち忽たちち開ひらけて光こう一閃いつせん  
蘇生そせいせる萬物ばんぶつ紅暎こうんあふる

佐倉市

尚堂

宮崎三郎

紫陽花

雨餘小院紫陽花  
露露繡毬清麗誇  
好看夫君終不厭  
低頭懷昔日西斜

流山市

翠竹 宮本美恵子

紫陽花

雨余の小院紫陽の花  
露に露う繡毬清麗を誇る  
好んで看る夫君終に厭かず  
頭を低れて昔を懐へば日は西に斜なり

林中閑歩

閑人早曉踏初陽  
紅白花飛小徑長  
新綠林中新鳥響  
薰風習習送清涼

市川市

荘石 森崎直武

林中閑歩

閑人早曉初陽を踏む  
紅白花飛んで小徑長し  
新綠林中新鳥響き  
薰風習々清涼を送る

草堂立秋

數聲蟋蟀自心幽  
竹樹園庭灑氣流  
從是讀書時節好  
草堂涼動入新秋

我孫子市

鏃風 矢尾 晃

草堂立秋

數聲の蟋蟀 自ずから心幽なり  
竹樹 園庭 灑氣流る  
是れ從り讀書 時節好し  
草堂涼は動き 新秋に入る

榛名神社

深山澗籟潤松杉  
石徑遙看壁峭巉  
聞是九龍湖水始  
化成神佛又成岩

船橋市

八嶋溪風

榛名神社

深山の澗籟 松杉を潤し  
石徑 遙かに見る 壁峭の巉たるを  
聞く是れ 九龍湖水の始めと  
化して神仏と成り 又岩と成る

遊越南順化阮朝王宮

越南順化の阮朝王宮に遊ぶ

小金井市

誼軒

柳田昌宏

風到宮門五鳳樓

風は到る宮門五鳳樓

太和堂奥玉臺收

太和の堂奥玉台收む

紫微模舊又新築

紫微旧を模して又新たに築き

戰禍王城誇雅優

戰禍の王城雅優を誇る

俱訪長子婦家富山展墓

俱に長子が婦家の富山を訪ひて展墓す

市川市

和風

山下和子

郊墟萬頃立峰清

郊墟万頃立峰清し

彼岸墓田山野英

彼岸の墓田山野の英

家族追懷親母迴

家族追懷して親母迴かなり

焚香縹渺讀經聲

香を焚けば縹渺たり読経の声

鬪龍灘

奇岩怪石激灘生  
白浪碧渦旋勢聲  
坐岸遊人望遠水  
青青楊柳一空明

遊鋸山日本寺

山盈靈氣綠陰新  
處處聞禽全路巡  
羅漢千餘成列坐  
遠懷名匠佛心純

御前崎市

巴溪

山田紗代子

鬪龍灘

奇岩怪石激灘生  
白浪碧渦旋勢の聲  
岸に坐して遊人遠水を望めば  
青々たる楊柳一空明らかなり

柏市

芳野禎文

鋸山日本寺に遊ぶ

山は靈氣盈ちて緑陰新たなり  
処々禽を聞き全路を巡る  
羅漢千余列を成して坐す  
遠く懷ふ名匠の仏心純なるを

## 千葉県漢詩連盟 役員

顧問

石川岳堂 宇野直人 大山徳高 河内君平

川久保貞軒 廣野行甫 藤田梨那

相談役 金子静修 杉山溪雲

会長 鷺野翔堂

副会長 八嶋溪風

常務理事 (事務局長) 菅原有恒

理事

相澤無有 青木智江 薄井暎山

椎名耕道

清水蒨山 (事務局次長) 津田峻嶺

鶴岡香苑 富樫貞華 宮崎尚堂

監事 矢尾鏃風

## 入会のご案内

本会は、漢詩創作や鑑賞を通じて会員相互の交流をはかるとともに、研究・普及活動にも力を注いでおります。

作品発表の場も、「会報」『千葉詩藻』『房総風雅』と種々設け、漢詩創作の勉強も、初級・中級の二講座を開き、さらに通信講座も併催しております。

関心のある方の入会をお待ちしております。下記事務局までご一報ください。

## 編集後記

平成二十五年創刊の『千葉詩藻』も第三号の発刊になりました。ご協力に感謝いたします。昨年は千葉連の十周年記念大会も盛大に催され、実りある一年でありました。本年も会員の皆様には様々な機会に作品を投稿され、腕を磨いていただければと期待しております。

今年も有志による第三回海外吟行(台湾)を三月下旬に実施いたします。多くの作品の発表を楽しみにしております。

(清水蒨山)

平成二十八年三月二十日

編集発行 千葉県漢詩連盟

事務局 〒二七六〇〇二三

千葉県八千代市勝田台二一七二

菅原有恒

TEL/FAX 〇四七一四八四一九三三五

印刷 株式会社アクトロース社